ふしみ
子ども新聞
2023年
1月号
発行
inote+P
（あいのてぷらすぴー）
伏見区 区民活動 支援事業

向島まつりの子ども記者の取材から作られた

地域共生循環型クリスマスツリー

12月18日から12月25日の期間に、向島中央公園の真ん中の滝にある木に、クリスマスツリーの飾り付けがされていました。12月25日の向島駅前わいわい元気バザールで、クリスマスツリーの最後の飾り付けがあったので、参加しました。

クリスマスツリーの飾りは、イチョウの葉っぱを繋げたもので出来ていました。僕たちは、飾り付けの最後に、みんなでシャボン玉を吹きました。シャボン玉を吹くと、大きなシャボン玉や細かいシャボン玉が、クリスマスツリーと重なって、とてもきれいでした。その後、クリスマスツリーを作った人を取材しました。（小学5年生3人の取材より）

このクリスマスツリーを作った思いは何ですか？

10月末にあった「向島まつり」で、子ども記者が地域の子どもに「向島にあったらいいなと思うものは何ですか？」と聞いたら「ユニバーサルスタジオジャパン」と答えて、その事が子ども新聞11月号の見出しになっていました。ユニバーサルスタジオジャパンのような遊園地を作るのは、なかなか大変だけど、この時期のユニバーサルスタジオジャパンと言えば、クリスマスツリーが有名。それなら、向島の公園にクリスマスツリーを作ろう！と思いました。

出来るだけ自然にあるもの活用を考えました。デザインは、秀蓮小中学校の6年生が考えてくれました。最初は、落ち葉で丸い形の飾りを作っていたけど、モールの方が良いという意見があって、イチョウを使ってモールを作りました。ほとんど、向島にあるもので作りました。

この丸い輪は、何ですか？

これは、リースと言ってクリスマスの飾りです。野の百合保育園の子ども達が、この向島中央公園で拾ってきた葉っぱや、団地のおばちゃんたちがきれいに育てた花、中央公園の水辺の草で作っています。稲わらで輪を作って、集めてもらった葉っぱなどで飾りつけをしています。

この木を選んだ理由は何ですか？

向島中央公園の真ん中にある木で、高さがちょうど良いと思ったので、この木を選びました。木に登ったり、はしごを使って飾りをつけました。

最後の飾りつけをして、今の気持ちは？

必要なものは、工夫をすれば、自然の中にあると思います。例えば、この飾り付けを紐で縛る時に、ハサミを忘れてしまったけど、ここにある石を使えば紐を切ることが出来ました。

この飾りに使っている広葉樹の葉は、クリスマスが終わったら畑に埋めて土に還します。クリスマスツリーの飾りが土になったら、その土で野菜を作ります。

自然にあるものと、工夫があれば、暮らしを楽しんだり、遊びを楽しんだりする事が出来ると思うので、自然や植物のある向島の環境っていいなと思います。（質問内容は、子ども記者の声をそのまま文章にしています。）

ひとこと

クリスマスツリーの飾りつけをしていると、通りがかりの住民の方から「ありがとう」と、たくさんのお言葉を頂いたそうです。メッセージを書いたお手紙をツリーに結んで下さった方もおられました。ツリーを見るために、散歩に来たとおっしゃる方もおられました。とても温かい気持ちになるクリスマスツリー。来年も再来年もずっと続けば良いなぁ。

伏見桃山「きのわっぱ＆素材スイーツ」

「きのわ　わっぱ＆素材スイーツ」を取材！地元の新鮮で美味しいオーガニック野菜を使われているそうです。

「きのわ」って何ですか？

京阪電車の伏見桃山駅を降りて3分ぐらい歩いたところにあるお店を取材しました。お店の前には、丸いお弁当箱が置いてあって、中から煙が出ていました。後でお母さんにきいたら、「食品サンプル」って言っていました。煙ではなく、湯気でした。

お店の名前が「きのわ」という名前だと聞きました。「きのわ」が何かわからなかったので、お店の人に聞いてみました。「きのわ」というのは、木の年輪と言う意味だと教えてもらいました。「わっぱ」というお弁当箱を使っているそうです。

「わっぱ」は、木を削るカンナで、年輪に対して直角に切り出した後、お湯につけて、柔らかくし、丸い形にして固めるそうです。わっぱ弁当は、湿度が保たれて美味しい食感が保たれるそうです。聞いたからには、食べたくなりました。

「わっぱ」に入ったお料理は、食べ終わるまで温かさが続く。甘味のある野菜やいろいろな素材を、出汁で炊いたご飯の上に載せて蒸しあげているそうです。

「ずんだ」って何ですか？

枝豆を、すりつぶしたもの。東北地方の名物料理。砂糖と塩を入れて餡を作って、ずんだのスイーツを作っていると言っていました。

「オーガニック」って何ですか？

お母さんに聞いたら、お料理に出てくる野菜が甘くて美味しかったと言っていました。お母さんだけ食べに来た事があって良いなぁと思ったけど、僕はまだ生まれて6か月ぐらいだったから、まだ食べられなかったそうです。もう食べられるようになったから、次は絶対に食べたい。

メニューに「オーガニック」と書いていたから質問してみました。野菜を作る時に、虫がつかないように農薬を使う事があるけれど、農薬は虫を殺す毒なので、農薬を使った野菜は体に良くない。オーガニックと言うのは、農薬を使わないで育てた野菜の事だそうです。お店では、オーガニックの野菜を、料理に使っているそうです。毒がついた野菜は怖い。僕は、生の野菜は嫌いだけど、甘い野菜やったら食べられるかもしれないと思いました。（小学5年、2年、年長児の取材より）

向島駅前わいわい元気バザール！子ども記者が出店者さんを突撃取材！

12月25日に行われた向島駅前わいわい元気バザールで、突撃取材をしました。

ラーメン屋さんが車で来ていたので、「車の中でどうやってラーメンを作っているのですか?」と質問しました。

ラーメン屋さんに、「見てもらった方がわかりやすいし、見てみて」と言ってもらえたので、車の中を見せてもらいました。車の中に、ラーメンを作るための調理器具が、たくさんおいてありました。給食のお鍋より大きいお鍋でラーメンを作っているところを見せてもらいました。取材をさせてもらったので、お礼に大きな声で「ラーメンいかがですか?」とお客さんを呼ぶお手伝いをさせてもらいました。（小学6年生の取材より）

僕は、たこ焼きが好きなので、たこ焼き屋さんを取材しました。「焼く時間によって美味しさって変わるのですか?」と質問しました。お店の人は「強火で焼き上げると外はカリッと、中はふっくらと焼けて美味しく出来ると教えてもらいました。

メニューは、ソース、塩、醤油、マヨネーズ、チーズ、カレーなどがあると言っていました。今あるメニュー以外の味を考えてみました。味噌味があったら美味しいかもしれないと思ったので、お店の人に伝えました。お店の人は「いいかもしれんね」と言ってくれました。（小学3年生の取材より）

子ども新聞ワークショップ

出店者さんを取材しよう！
取材内容は後日新聞になります

@向島駅前わいわい元気バザール

対象：小学生
参加費：無料

3月6月9月12月の
第4日曜日
10時～14時

諸事情でワークショップ開催を中止する場合があります。

コンポストの作り方

①ダンボールを準備
※熱が上がると湯気が出るので2重構造のダンボールがおすすめ

②ガムテープで補強
※コンポストが呼吸できるようクラフトテープが好ましい。虫の侵入を防ぐため穴はしっかり塞ぐ

③底面補強のため、ダンボールを切って敷く

コンポストの作り方

④ベランダに設置
※雨の当たらない日当たりのいい場所に設置。すのこで通気性をよくする

⑤基材を入れる
ピートモス3～5：もみ殻くん炭1

⑥生ごみを投入
例)コーヒーかす、だしパックの中身、野菜くず、魚の骨、鶏の骨、果物の皮などなど
米ぬかや使用後の揚げ油を入れると、温度が上がりやすい

⑦保管時は布カバーをかけておく

DO YOU KYOTO?
コンポストにチャレンジしてみませんか？

ふしみ子ども新聞

子ども記者募集中！

気になる事を取材しよう！
取材内容は後日新聞記事になります

子ども新聞

子ども記者になって、人や地域を取材しよう

【子ども新聞公式LINE】から
お友達登録をお願いします
イベントの告知や過去の子ども新聞が見られます